

西国第十一番 深雪山

御本尊／准胝観世音菩薩 開基／聖宝理源大師

真言宗醍醐派 上醍醐 准胝堂

笑顔もたらず サクラ

座主 壁瀬宥雅

毎年、桜の季節が近づくと、

「いつ頃が満開ですか？」と尋ねる電話の応対で寺務所職員が多くが悩んでしまいます。毎日観察していても、満開になる日が分かるのは、2〜3日前だからです。来週には満開になるのでは、と思っています。天候次第で大きく遅れる時もあるれば、あつという間に満開になる年もあります。豊臣秀吉が楽しんだ桜を

見たいという気持ちは十分に分かりますので、一応の日時を伝えるようにしています。が、どうしても「天候次第で変わりますので、そのことはご承知おきください」と付け加えてしまうようです。慶長三年（一五九八）に秀吉が行った「醍醐の花見」は有名で、広く知られていることは嬉しいことです。その花見の時、秀吉が多数の桜を植

樹したから、醍醐寺は桜の名所になったと思っっている人が多くいます。確かに、秀吉は「醍醐の花見」の直前に七百本前後の桜を京都だけでなく、滋賀、大阪、奈良から醍醐寺に運ばせて植樹しています。しかし、それ以前から、醍醐寺の桜の美しさは世間に知られているのです。秀吉も「醍醐の花見」の前年、徳川

家康を伴って、醍醐寺の桜を愛でていきます。当時の醍醐寺座主・義演准後の日記を読むと慶長二年三月八日の条に「太閤御所俄當寺花御覧御成」とあり、家康と一緒に食事をした事も記されています。秀吉が醍醐で花見を行った理由として様々なことが言われていますが、単に醍醐寺の桜が古くから知られていたことも大きな要因だと思えます。桜が満開の時、境内は普段とは異なり大混雑します。西国巡礼に来られた方は、静か

にお参りできず不満を持たれるのでは、と心配することもあります。しかし、ほとんどの巡礼者も桜を見て笑顔となり、嬉しそうに写真を撮ったりしています。笑顔をもたらず桜、これからも、できるだけ正しい「満開」を案内して参りたいと思っています。

